

虫がすむ。雑木林のビオトープづくり

カブトムシやクワガタムシのビオトープ

市内には、約360年前の^{しんでんかいほつ}新田開墾に由来する雑木林が残っています。これらの雑木林のほとんどはクヌギやコナラなどの落葉広葉樹で構成され、樹木の樹液や野草の花に多くの昆虫が集まり、その昆虫や植物の実を食べに鳥が集まり多くの生きものがすんでいます。市はこれらの雑木林を保存樹林に指定し、市民団体による保全活動も行われるなど、雑木林を守り育てる活動が行われています。このような活動ではビオトープがつくられています。例えば、伐採した幹や竹などを組んで落ち葉を敷き詰めた落ち葉プールもそのひとつです。

保存樹林などに指定された雑木林では、個人で保全活動を行うことはできません。ボランティア団体などの活動に参加したり、イベントに参加したりしてビオトープづくりを行いましょう。このような活動に参加したい方は、裏面の発行先へお問い合わせください。

雑木林の伐採や萌芽更新によってできた空間は、日光が雑木林の地表面に良く届くため、野草や樹木の種が芽吹いてきます。そのような多様な植物の空間は、バッタやコオロギの仲間、これらを食べるカマキリの仲間や鳥たちがすみやすくなります。

※萌芽更新
木を伐採した後、その切り株から新しい芽がたくさん出てきます。もやわけなどの適切な管理をし、この芽を育て、15～20年後に再び伐採を繰り返すといった雑木林の若返り方を「萌芽更新」といいます。



萌芽更新によって育った新芽
伐採した木を積んでおくと、木がぼろぼろになります。このような朽木を積んだ空間には、クワガタムシやカミキリムシがすみつきます。特に、クヌギやコナラなどの落葉広葉樹の幹や枝を使用することが効果的です。

森のレストラン

雑木林のクヌギやコナラなどの樹液を出す樹木には、樹液を好むルリタテハなどのタテハチョウの仲間や、カブトムシ、クワガタムシ、カナブンなどの昆虫がたくさん集まって「森のレストラン」のようになります。

林や草原の管理には、カマなどの刃物を使う場合が多くあるため、使い方を守って、事故を防ぎましょう。

落ち葉プール

葉の分解が速いクヌギやコナラの葉は1年から2年ぐらいで腐葉土となります。イチヨウやカキノキなどは葉の分解に時間がかかるので不向きです。

雑木林で観察できる代表的な昆虫



ノコギリクワガタ コクワガタ アオカナブン・カナブン カブトムシ ヤマトタマシ

プールのヤゴ救出作戦



ヤゴ救出作戦の様子

ギンヤンマの産卵

オフシーズンの学校プールは、防火用水として水を張ったままにしているため、トンボの幼虫であるヤゴなどの水生生物がすんでいます。また、プールにススキやマコモなどの草の束をうかせたり、水草を入れたりすると、植物に産卵するヤンマの仲間のギンヤンマなどもすみやすくなります。

ヤゴをそのままにしておくでプール清掃時に流されてしまうため、市内の小学校ではヤゴを救出し飼育することで、子どもたちが生きものにふれあうことができる環境学習の場として活用しています。

こだいらの空高くさえずるヒバリと麦畑

ヒバリは、春にさえずりながら空高く飛んでなわばりを主張することから、春を告げる鳥として昔から親しまれてます。しかし、最近では、ヒバリの繁殖地となる麦畑や草地在り少なくなり、都市部では河川敷でしか出会う機会が少なくなってきました。

こだいらでは、昔から水が乏しかったためヒエ・アワ・小麦などの穀類が耕作され、そこはヒバリの生息地になっていました。また、畑でとれた小麦をもとにした地粉で手打うどんを打つ習慣があり、この習慣を貴重な食文化として保存しているという活動が行われています。こだいらの空高くさえずるヒバリは、市の食文化の象徴でもあるわけです。



ヒバリ

ビオトープとは

ビオトープとは、生きものを意味する“bio”と、場所を意味する“top”を合成したドイツの造語 (biotop)、英語では biotope で、直訳すれば「生物生息空間」です。それは、ある生物群集が生息できるような生態学的に見ても良好な環境空間のことをいいます。

最近では、公園や校庭などに作られた生きものの生息・生育環境空間のことをいう場合もあり、トンボ、メダカ、野鳥など小動物の生息環境や郷土的な植物の生育環境を意識した空間づくりが行われています。

ビオトープ内の生きものは自然にすみつくことが基本で、ビオトープづくりは、それを手助けすることです。そこにすんでいない昆虫をつれてきたり、ペットを放したりしないようにしましょう。

身近なビオトープづくりとは

身近なビオトープづくりは、市民のみなさんにとって身近な空間である住宅の庭やベランダなどにおいて植栽の工夫をしたり、身近な生活用具や不用となった用品などを活用したりしながらビオトープづくりを行い、野生生物とのふれあいを通じて、みどりと親しみ、みどりを育てていくまちづくりをめざしています。

そのために、住宅の庭やベランダなどのスペースで、市に生息する昆虫や鳥類の生息環境を意識して植物を育てたり、鳥類の巣箱や、バードバス、落ち葉や剪定した枝を用いた昆虫類の生息・生育環境空間づくりを行ったりすることも「身近なビオトープづくり」として位置付けました。

表紙写真 上段：ルリタテハ・アキアカネ・ジョウビタキ・アゲハ
中段：エナガ・シオカラトンボ・ルリシジミ・ツグミ
下段：ショウリヨウバッタ・モンキチョウ・ショウジョウトンボ・ナガサキアゲハ

表紙背景 玉川上水緑道

平成 27 年 (2015 年) 3 月発行

企画・編集 小平市・小平市身近なビオトープづくりリーフレット編集委員会
発行 小平市都市建設部水と緑と公園課 ※平成 27 年 (2015 年) 4 月より「環境部水と緑と公園課」に変更。
所在地 〒187-8701 小平市小川町二丁目 1333 番地
電話番号 042 (346) 9830 FAX 042 (346) 9513
電子メール koen@city.kodaira.lg.jp
ホームページ http://www.city.kodaira.tokyo.jp
小平市 ホームページのトップにある検索欄に「身近なビオトープ」と入力して検索してください。

本リーフレットの内容を無断で複製することを禁じます。

身近なビオトープづくりリーフレット



はじめてのビオトープ。生きものたちと生きているビオトープのまち こだいら

小平市は、みどり豊かな奥多摩や多摩湖とつながっている玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、小金井公園で構成された「小平グリーンロード」に囲まれるとともに、多くの農地や雑木林、用水路が残る みどり豊かな まちです。市では、みなさんが庭やベランダなどの身近な場所で、よりこの豊かなみどりを感じられるように、市内に生息しているチョウや鳥たちが好む花や実のなる植物を庭に植えるなどして、これらの生きものたちの新たな生息空間をつくり出す「身近なビオトープづくり」をスタートさせました。

このリーフレットは、みなさんが気軽に「身近なビオトープづくり」に取り組んだり、そこに訪れた生きものたちとのふれあいや観察を行うためのヒントや手法を説明したものです。ぜひあなたも「身近なビオトープづくり」にチャレンジして、鳥や昆虫などとふれあうことができる 水と緑の美しいまちづくりに参加してください。



小平市

チョウが舞う。鳥を呼ぶ。あなたの庭から、ベランダから「身近なビオトープづくり」はじめませんか。

バタフライガーデン（チョウのビオトープ）

市内には約40種のチョウ類が生息しています。その中には、住宅地にすむことができるチョウもいます。庭やベランダに、幼虫が食べる植物（食草や食樹といいます。）の鉢植えを置いたり、成虫が蜜を吸うために訪れる植物（吸蜜植物といいます。）の鉢植えを置いたりするだけで、卵を産みにきたり、蜜を吸いに訪れるようになります。色々な食草・食樹や吸蜜植物を庭やベランダに植えて、多くのチョウを呼びましょう。

食草や食樹、吸蜜植物は、苗や種子を園芸植物や山野草を売っているお店で買って植えましょう。水やりや除草などの日々の管理や、台風や大雪などの対策を行い大切に育ててください。

1本の食草にたくさんの幼虫がつくと、食いつくされてしまいます。食草の数を増やすか、飼いたい人に分けてあげましょう。アゲハチョウの場合は1匹の幼虫がサナギになるまでに、約20cm×25cmの面積の葉（ナツミカンやユズの場合15枚～20枚）が必要になります。

落ち葉ストックは、下から腐葉土を取り出せるようにして、普段はレンガなどでふたをしておきましょう。

飛ぶ力の強いアゲハチョウやタテハチョウの仲間は高いマンションのベランダにも飛んできますが、飛ぶ力の弱いシロチョウの仲間やシジミチョウの仲間は、飛んでくることができません。場所に合った食草・食樹や吸蜜植物を選んで植えましょう。



食草や食樹、吸蜜植物には農薬や除草剤などをまかないようにしましょう。

食草や食樹を剪定する場合は、幼虫がついていないか注意しましょう。

吸蜜植物の剪定や刈込みは、花の時期が終わってからにしましょう。

市内で身近に観察でき、庭やベランダに呼ぶことができる代表的なチョウを写真や右の表に示しました。これらを参考に食草や食樹、吸蜜植物を選んで植えましょう。

チョウの幼虫が食べる植物（食草・食樹）

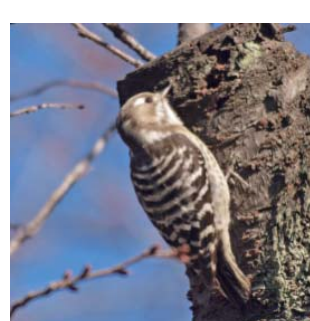
チョウの名前	食草・食樹	解説
クロアゲハ ナガサキアゲハ アゲハなど	サンショウ ナツミカン、ユズ、レモンなど	・高さ2.0～4.0mの落葉低木 ・高さ3.0～6.0mの常緑小高木 ・花期：5～6月（花には他のアゲハチョウの仲間も吸蜜に集まります）
キアゲハ	セリ ニンジン ハセリ	・湿地に生える高さ20～50cmの多年草 ・花期：7～8月（花には他のアゲハチョウの仲間も吸蜜に集まります） ・高さ15～20cmの多年草 ・高さ20～40cmの2年草
ツマキチョウ モンシロチョウ シジミチョウ	アブラナ（ナノハナ） ショウカツサイなどのアブラナ類	・高さ0.5～1.0mの1年草または2年草 ・花期：5～6月（花には他のアゲハチョウも吸蜜に集まります）
モンキチョウ ツバメシジミ	ゲンゲ（レンゲソウ） シロツメクサ	・高さ10～25cmの2年草 ・花期：4～6月（花には他の色々なチョウも吸蜜に集まります） ・高さ10～30cmの多年草 ・花期：5～6月（花には他の色々なチョウも吸蜜に集まります）
キタキチョウ ウラナミシジミ ルリシジミ ツバメシジミなど	ミヤギノハギ ヤマハギなどのハギ類	・高さ1.0～2.0mの落葉低木 ・花期：7～9月（花には他の色々なチョウも吸蜜に集まります）
ヤマトシジミ	カタバミ	・高さ10～30cmの多年草 ・繁殖力の強い植物です
ベニシジミ	ギンギン スイバ	・高さ10～30cmの多年草 ・繁殖力の強い植物です
ツマグロヒヨウモン	タチツボスミレ ノズスミレなどのスミレ類	・高さ10～30cmの多年草 ・高さ20～30cmの1年草
ルリタテハ	ヤマユリなどのユリ類	・高さ1.0～1.5mの多年草

チョウの成虫が蜜を吸う植物（吸蜜植物）

植物の名前	解説
ムラサキケマン	・花期：4～6月 ・シロチョウの仲間などが吸蜜に集まります
ノアザミ ノハラアザミ	・花期：5～8月（ノアザミ）8～10月（ノハラアザミ） ・色々なチョウが吸蜜に集まります
オカトラノオ	・花期：6～7月 ・ヒヨウモンチョウの仲間やセリチョウの仲間などが吸蜜に集まります
オニユリ ヤマユリ	・花期：7～8月 ・アゲハチョウの仲間が吸蜜に集まります
オミナエシ	・花期：8～10月 ・色々なチョウが吸蜜に集まります
フジバカマ	・花期：8～10月 ・色々なチョウが吸蜜に集まります
ノコンギク ヨメナ	・花期：8～11月 ・色々なチョウが吸蜜に集まります
クヌギ コナラなど	・蜜（樹液）が発生する時期：5～9月 ・ルリタテハなどタテハチョウの仲間が吸蜜に集まります

鳥が実や蜜を食べる植物（食餌植物）

植物の名前	主に利用する鳥類	解説
ウグイスカグラ	キジバト、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ	・高さ1.5～3.0mの落葉低木 ・実のなる時期：5～6月
ヤマボウシ		・高さ5.0～10.0mの落葉小高木 ・実のなる時期：9～10月
ガマズミ	キジバト、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ	・高さ2.0～4.0mの落葉低木 ・実のなる時期：9～11月
ムラサキシキブ コムラサキ	オナガ、ウグイス、メジロ、ツグミ	・高さ1.0～3.0mの落葉低木 ・実のなる時期：9～11月
ウメモドキ	オナガ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ	・高さ2.0～3.0mの落葉低木 ・実のなる時期：9～11月
マユミ	コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ	・高さ3.0～5.0mの落葉小高木 ・実のなる時期：9～11月
ニシキギ	キジバト、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ	・高さ2.0～3.0mの落葉低木 ・実のなる時期：10～11月
ナンテン	オナガ、ヒヨドリ、ツグミ、ジョウビタキ	・高さ1.0～3.0mの常緑低木 ・実のなる時期：10～11月
ヒサカキ	キジバト、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ	・高さ4.0～8.0mの常緑小高木 ・実のなる時期：10～11月
カキノキ		・高さ3.0～5.0mの落葉小高木 ・実のなる時期：10～11月
サザンカ ヤブツバキ	ヒヨドリ、ウグイス、メジロ	・高さ5.0～6.0mの常緑小高木 ・実のなる時期：10～12月
クロガネモチ	オナガ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ	・高さ10.0～15.0mの常緑高木 ・実のなる時期：10～12月



小平市の鳥 コゲラ

市の鳥コゲラは、日本に生息するキツツキの仲間でもっとも小さい鳥です。雑木林にも生息し、市内では玉川上水付近でよく見ることができます。

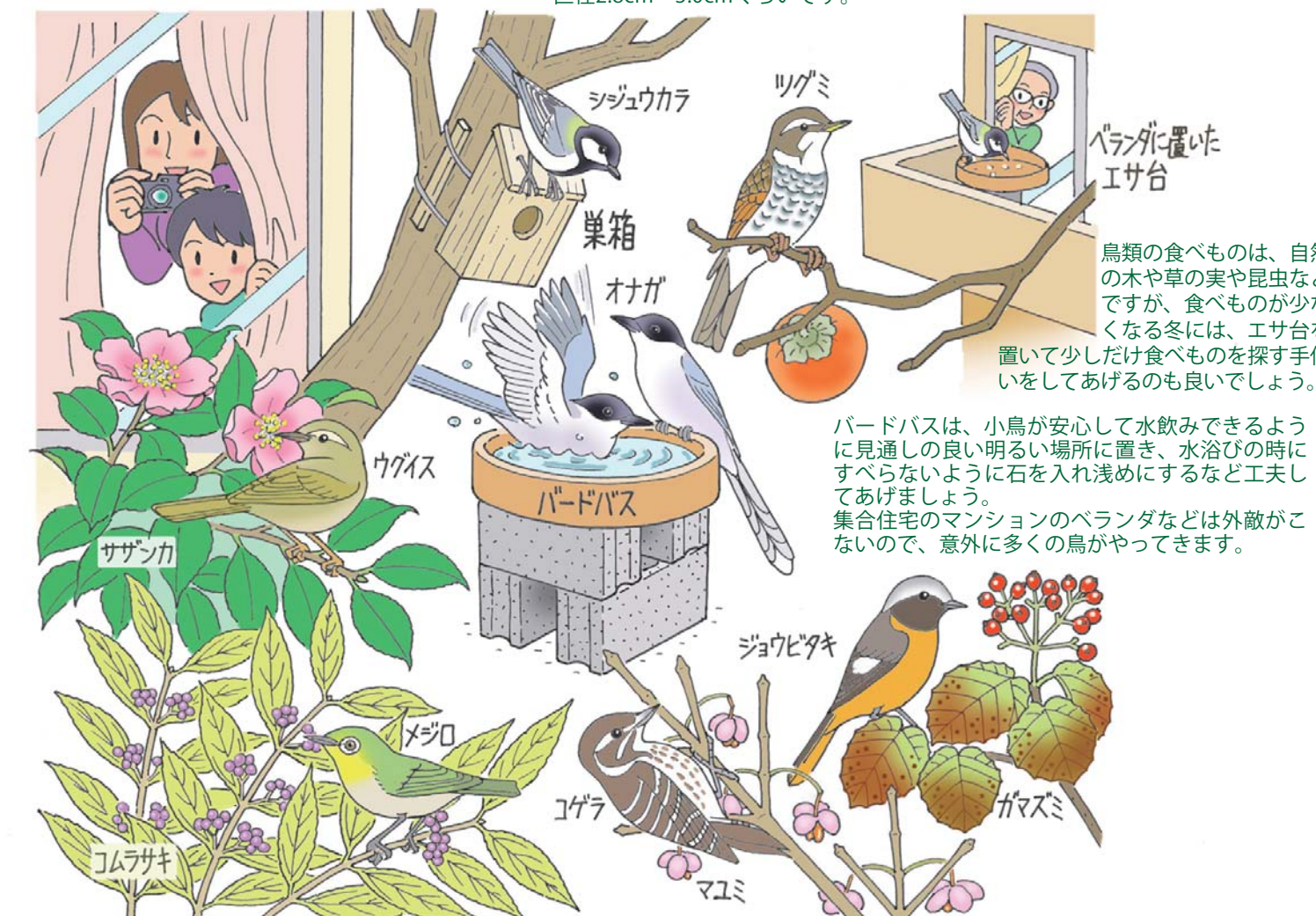
キツツキの仲間は枯れた幹や枝にとまり、樹木に影響をあたえる虫などを食べることから、緑を守る救世主といえます。また、キツツキの仲間が掘った巣穴は、シジュウカラなど多くの生きものが利用します。このように雑木林を好むコゲラは「緑を育て小鳥の来まちづくり」を進めている市の象徴となっています。

バードガーデン（小鳥のビオトープ）

市内には、コサギやカルガモなどの水鳥からオオタカのような猛きん類まで、数多くの鳥類が生息しています。また、シジュウカラやメジロなどの小鳥は住宅地の中でも見ることができます。庭やベランダに、鳥類が実や蜜を食べる植物（食餌植物といえます。）を植えたり、バードバス（水飲み場や水浴びの場のこと。）をつくりたりして、多くの鳥を呼びましょう。

巣箱の取り付け場所は、ネコやヘビが来ないように、2m以上の高さが必要です。雨や風が入らないように、少し下向きに付けるのもポイントです。繁殖シーズンは終わる秋に巣箱を掃除しましょう。巣穴の大きさは、利用する鳥によって異なります。例えばシジュウカラの場合は直径2.8cm～3.0cmぐらいです。

窓などからのぞいて、どのような鳥が訪れたか記録しましょう。



バードバスは、小鳥が安心して水飲みできるように見通しの良い明るい場所に置き、水浴びの時にすべらないように石を入れ浅めにするなど工夫してあげましょう。集合住宅のマンションのベランダなどは外敵がこないで、意外に多くの鳥がやってきます。

鳥類が安心して食べられるように、できれば複数の食餌植物を植えるようにしましょう。鳥類の食餌植物の中には大きく育つ木もあります。左の表を参考に、庭やベランダの広さに応じて植える食餌植物を決めましょう。

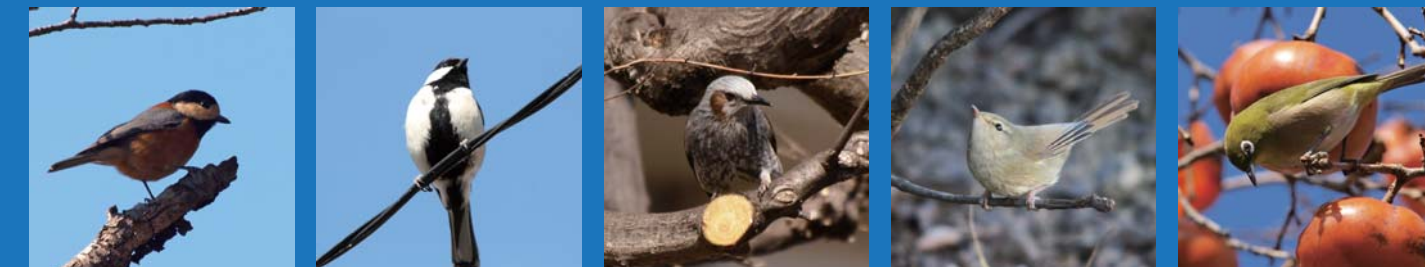
食餌植物には農薬や除草剤などをまかないようにしましょう。食餌植物の剪定や刈込みは、実がなる時期が終わってからにしましょう。

身近に観察できるチョウ



クロアゲハ キアゲハ ツマキチョウ モンシロチョウ シジミチョウ キタキチョウ ツバメシジミ ウラナミシジミ ヤマトシジミ ベニシジミ ツマグロヒヨウモン

身近に観察できる鳥



ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ